

灯火法語

人は出会いによって育てられ
別れによって深められる

(ある掲示板の言葉)

●人との「出会いの数」を統計的に表した、ある面白い記事を見つけました。

その内容を記しますと、人生の中で何らかの接点をもつ、人との出会いの数は「三万人」ほどいるそうです。この中から、同じ学校や職場で顔見知り程度に出会う人は「三千人」、またその中から会話をしたり、互いに顔と名前を覚えるような友人関係になる方が「三百人」ほどおり、またその中で、より深い関係となり、互いに支え合ったり、悩みを打ち明けたりできる「親友」と呼べるような方との出会いは、たった「三人」ほどだそうです。

もちろんこれは統計的な話なので、人によってその出会いの数は前後します。

考えてみますと、途方もない数の人々が、世の中で生活をしていますが、その中で出会い、ときに家族であったり、友人と呼べるような間柄で心通わせている関係はごく限られた方しかいない、ということになるでしょう。

●「人は出会いによって育てられる」

私の今までの人生を振り返ってみても、いつの時代も私を支え、育てていただいた方々が思い浮かびます。子どもの時を支えてくれた親をはじめ、祖父母の存在や、小学校のときに夢中で一緒に遊んだ懐かしい友人の存在。学生時代には、仏教の素晴らしいさを教えていただいた恩師の存在もありました。

皆さまの人生の過去を振り返ってみても、素晴らしい「出会い」があり、育てていただき、人生の道筋を作って下さった方々がいらっしやったことでしょう。「素晴らしい出会い」を重ねていくというのが人生の一つの側面です。

●しかしながら、出会いの先には必ず「別れ」が待っています。さまざまな別れの形がありますが、とくに家族や親友といった深い関係を築いてこられた方との別れは、いずれその時がやってくると知ってはいても、悲しみや寂しさで涙がこぼれるものです。

別れの涙の裏には、そのお方との、かけがえのない素晴らしい出会いがあった、とも味わえるのではないのでしょうか。

「別れによって深められる」

●別れの悲しい経験があつてこそ深められてゆく、命の世界もあるものです。

大切な方との別離に苦悩しつつ生きる「私」の命の有様を事細かにご覧になった阿弥陀如来は、その命、決して虚しくは終わらせはしないと大きな願いを起こされました。「我が国（浄土）に生まれていくと思い、お念仏申して生きてゆきなさい。必ずあなたをお浄土に迎えとる。ともに一つのところで、また懐かしい方々と出会っていく世界があるぞ」と、今も念仏となって確かに、そのはたらきが届いています。

南無阿弥陀仏